

第3回 みなまた地域創生ビジョン研究会議事次第

日 時：平成28年5月22日（日）12時30分～14時30分

場 所：水俣環境アカデミア（水俣市南福寺6-1）

議事次第：

1. 開会
2. 議事
 - (1) 研究会の趣旨等について・・・資料2
 - (2) 第2回の意見の概要報告について・・・資料3
 - (3) めざす地域社会像の方向性について・・・資料4
 - (4) その他
3. 閉会

配付資料：

- 資料1 委員名簿
- 資料2 研究会の趣旨等について
- 資料3 第2回の意見の概要
- 資料4 めざす地域社会像の方向性について

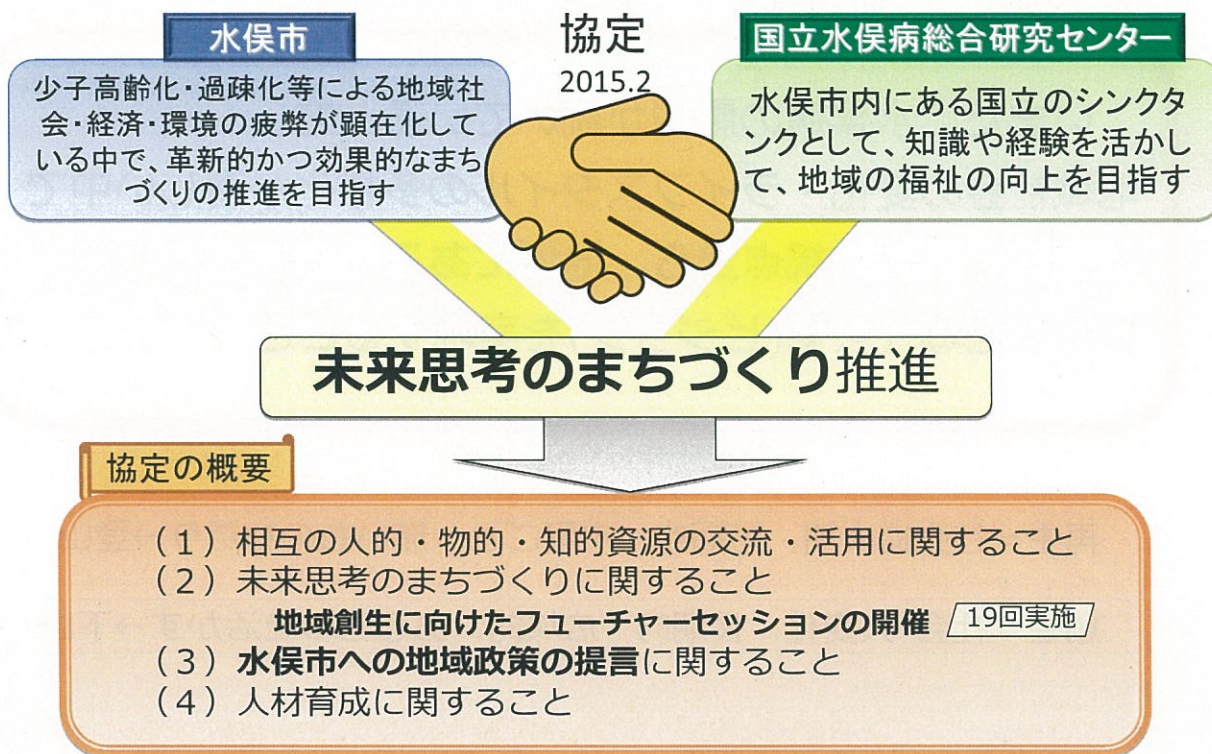
参考資料1 フューチャーセッションの成果（交流関係）

参考資料2 厚生労働白書（抜粋）

みなまた地域創生ビジョン研究会 委員名簿

(50 音順、敬称略)

- 石原 明子 熊本大学大学院社会文化科学研究科准教授
- 植木 誠 早稲田大学パブリックサービス研究所招聘研究員
- 勢一 智子 西南学院大学法学部教授
- 永松 俊雄 崇城大学教授
- 深水 陽子 深水医院副院長
- 藤本 有希 一般社団法人ハートリレープロジェクト ファウンダー
- 牧迫 飛雄馬 国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター
予防老年学研究部健康増進研究室長
- 松永 裕己 北九州市立大学大学院マネジメント研究科教授



1



2

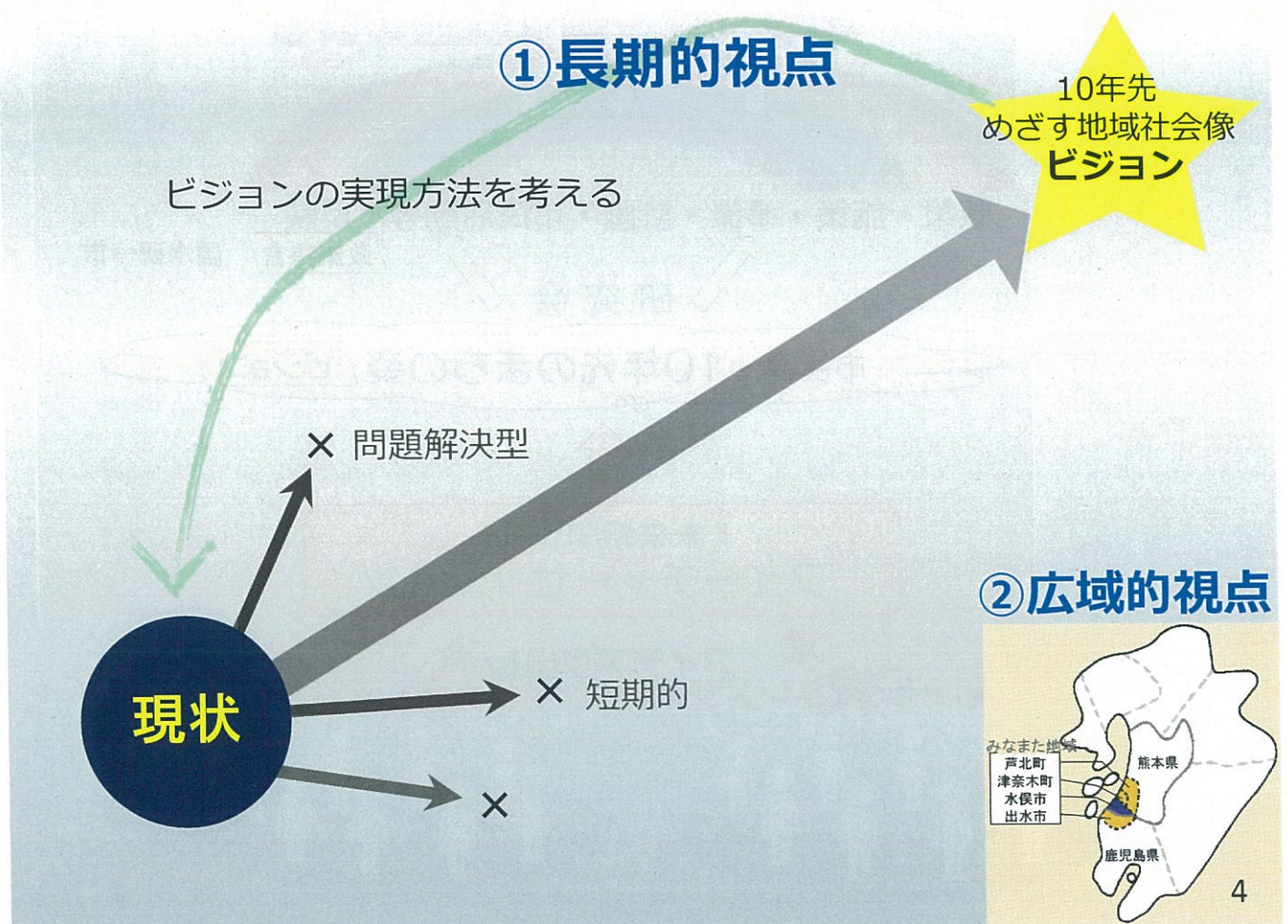
本研究会における地域創生とは

いまだに水俣病の影響が続いている一方、
地域社会の変化・ライフスタイルの多様化が著しい中で
長期的・広域的視点から、地域にあるものを活かして
めざす地域社会像(ビジョン)を実現すること

再生 = 社会拡大期、短期的・市町ごと、無いものねだり → 登山

創生 = 社会・人変化、長期的・広域的、あるものを活かす → 下山

3



③地域にあるもの（水俣市）

- ・ 顔がみえるまち
- ・ 子どもも協力する習慣・多くの場
- ・ 地域リビングを10数年継続中
- ・ 世界に名の知れた地名：水俣条約
- ・ 国水研、情報C、市資料館、県環境C、相思社
- ・ 医療施設多いコンパクトなまち
- ・ もやい館、ふれあいセンター
- ・ 環境マイスター、エコタウン、環境アカデミア
- ・ 地域資源マップ、村丸ごと生活博物館、愛林館
- ・ 日本一長い運動場、水俣川、新幹線の駅

5

第1回 意見の概要

- (1)研究会の対象分野については、**一点突破型のビジョン**を描き、その中で何か1つやるといい。
- (2)ビジョンのコンセプトについては、ロケーションの美しさプラス、健康という面で問題を抱えているまちなので「**美健**」はどうだろうか。
水俣モデルの**パイロット的**取組みができればいい。
- (3)情報発信については、過去のものをアピールするのではなく、広島のように**新たなイメージ**を使ってアピールする方がいい

6

第2回の意見の概要

(1) 広い意味での「健康」を大きくりのテーマとする

【永松座長】

- ・水俣病の教訓という場合、環境や健康の大切さを世界に知らしめること。
- ・地域とのつながり、人間関係、生きがいで広げて「健康」という大きなくくりで使ったらどうかという提案。
- ・孤独感を感じて、一人で誰とも話さない老人ほど、身体機能の低下、死亡のリスクが高くなるという報告がある。

【藤本委員】

- ・健康という大きなくくりの中で、ほんとうに地に足の着いた水俣市への政策提言は、市民をどう動かして、市民にどうやる気を起こさせるか。生きがいや人とつながることをもう1回思い出してほしい。

【石原委員】

- ・健康に焦点を当てて、地域のきずなをどう取り戻すのか、ということも含めてみると、おもしろいと思う。

【植木委員】

- ・家族、家庭の中での健康に対する意識を変えていくようなモデルができたらいい。
- ・カキ小屋のように新しい取組みを行い、水俣病の経験を踏まえて乗り越えていることがストーリーとしては美しい。

【勢一委員】

- ・環境での成功体験を「健康」のプロジェクトにつなげるようなことができれば望ましい。

【牧迫委員】

- ・健康だけでは、水俣でやる強みが少し薄い気がする。
- ・具体的な目標があると、そこから波及していろいろな効果があることが大きいのではないかと思う。

(2) 未来思考で、地域にあるものを活かしてビジョンを設定する

【永松座長】

- ・これまでの水俣病対策は、問題解決志向型だった。
- 一方、未来思考ではビジョンを最初に設定して、それに近づくために
どんなことをやればいいのか、を考えていくアプローチが必要。

【深水委員】

- ・水俣は、地域を非常に大事にしており、横のつながりが強い。うっとうしいと言う方もおられるかもしれないが、皆さん、とてもいいところを持っている。

【勢一委員】

- ・「健康」というキーワードは、すばらしい環境があっただけから、これまでの蓄積の上に、次は何を重ねることができるのか。
環境は達成しても、重要なキーワードであり続ける。
- ・当たり前だと思っていたことが、実は、外から見たら全然当たり前ではない価値があることを考え直すことは、シビックプライドというキーワードで言われ、その作業は、地域の誇りには大切なことである。

【牧迫委員】

- ・未来思考をどこまで見ていくか。ちょっと先で効果を見ようとする、ゼロから生み出すのは厳しい。

【松永委員】

- ・過去にとらわれるのではなく、地域の歴史・伝統・固有性を踏まえた

ころに未来がある。外から全然違うものを持ってきても、あまり意味がない。

- ・小さくてもいいから実効性があるものを盛り込む必要がある。それはできるだけ市民から出てきたものにする。

(3) ビジョンのターゲット（世代・対象者）を絞る

【石原委員】

- ・水俣の中でも、世代によって認識が違う。
- ・どの世代がどういう思いを持っているのかを考えながら進めるといい。

【永松座長】

- ・65歳を過ぎると、一番の関心は健康になる。
- ・地域おこしに一番関心があるのは若い世代。
- ・漠然と市民と言うよりも、ある程度、ターゲットを絞って、その人たちに最も効果的なプログラムを提供していく。

【藤本委員】

- ・子どもが次の時代をつくっていくので、子ども目線で作り上げていかなければいけないのではないか。
- ・住民が地元で愛着を持ち、子どもがしっかりと育っていくというところも方向性として持ってもらいたい。
- ・積極的になれない高齢者世代も、孫のためには前に出てくる方もたくさんいると思うので、そういう意味で子どももキーワードに入れるといい。

(4) ビジョンを実現するために、市民の自発性を引き出す

【牧迫委員】

- ・何か一部でも市の政策や事業の1個に乗るような形で発展していく可能性があれば、参加する方も本気で、この市・地域を考えて、未来を見てくれるだろう。

【永松座長】

- ・行政がどんなに旗を振っても、当事者たちがその気にならない限り、地域は元気にならない。
- ・ごく普通の人たちが一步一步自分たちのやりたいこと、実現したいことに向かっていく、そこにやりがい、楽しさ、充実感など見出すのが、健康につながるだろう。
- ・地元の歴史は自分たちがつくっていくという気持ちになるのが一番大事。
- ・課題は、水俣にいたる人たちがあまり動かず、周りの人たちが一生懸命に、来ては手伝うという形を少しずつ変えていくこと。

【藤本委員】

- ・私よりも上の世代は、「あきらめ感」が強い。地域の人たちがやる気を出せるかどうかポイント。
- ・市民の小さな意見が形になることの積み重ねによって、市民の「あきらめ感」はやる気へと変化していくだろう。
- ・地に足の着いた水俣市への政策提言は、市民をどう動かして、市民にどうやる気を起こさせるか。生きがいや、人とつながることをもう1回思い出してほしい。

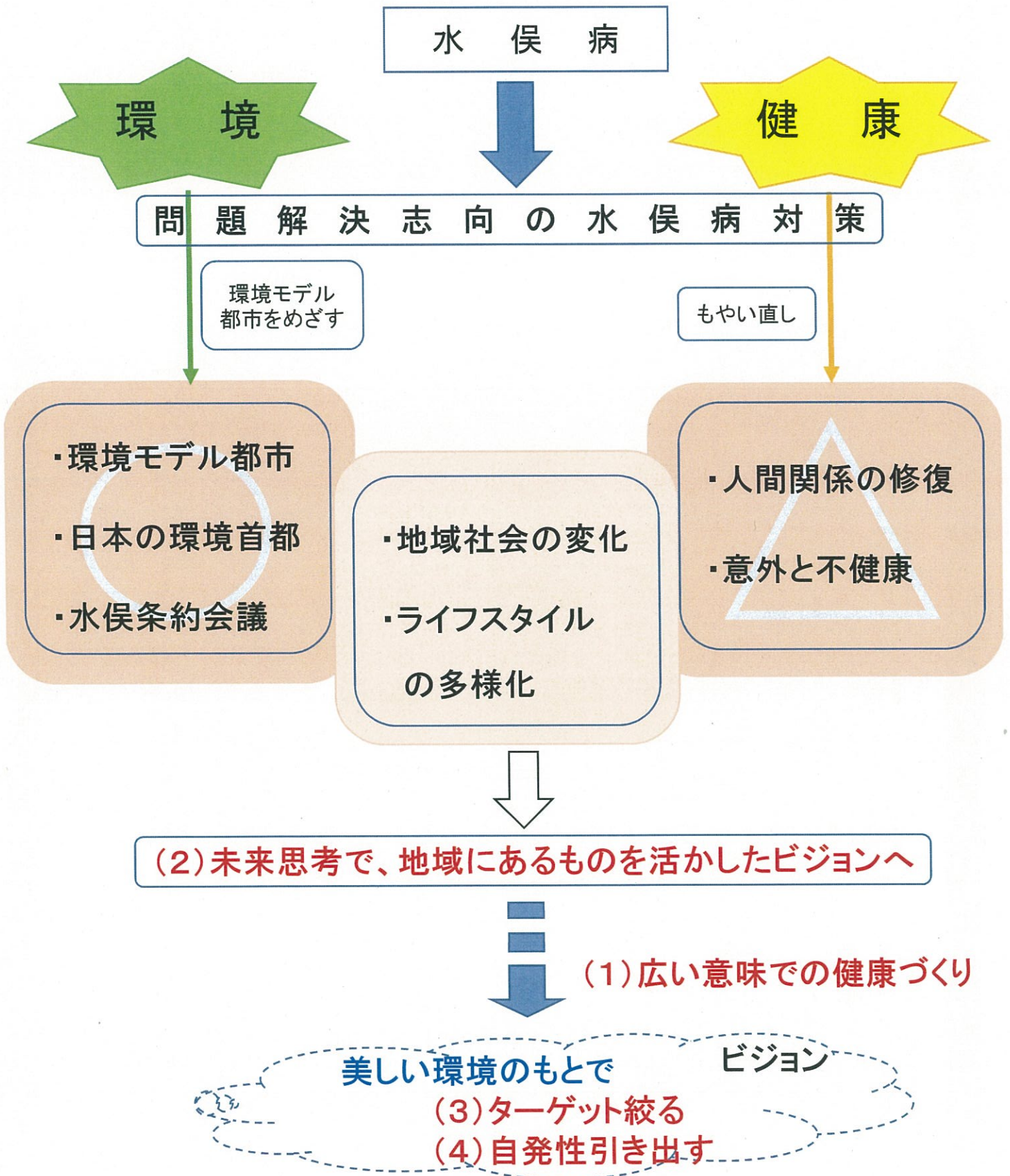
【石原委員】

- ・住民が動かないと何も動かない。住民が提案して、住民が主体でやるものにできるといい。

【松永委員】

- ・「実現できる」ということを、子どもや住民に理解してもらえると、自分事として考えられる。
- ・ある地域では、子ども議会で提案されたものを実際の議会、市役所が予算をつけて実施している。

これまでの意見交換のイメージ図



めざす地域社会像の方向性について

・本日は、第1回、第2回の議論とフューチャーセッション（19回実施）で引き出した市民のアイデアや意見を踏まえて、めざす地域社会像の方向性の決定に向けて議論していただきたい。

関心をもつ事象：健康面のギャップ

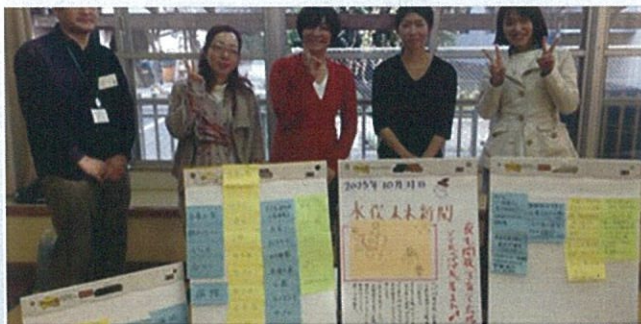
- ・ **生活習慣病多く、検診率低い**
（研究会第1回報告、健康増進計画p11、p7、市ひまわりプランp24）
- ・ **子どもの肥満傾向** 小中学生の全学年
（総合計画p58、健康増進計画p41）
- ・ **子育てしにくい状況・支援事業のニーズ多い**
（市子育て支援事業計画p21、p16、市地域福祉計画p9）
3交代勤務、介護、障がい、ひとり親、共働増加、ネグレクト、DV、虐待
- ・ あきらめ感（上の世代）、チャレンジ中（若い世代）
- ・ もやい直しで修復、人とのつながり感、距離感
- ・ 近所で遊べない、いじめ、実体験少ない
- ・ 近くに心を落ち着かせる場が無い、独居で寂しい・孤独

問題意識（健康面）

- 大人の生活習慣病は、子どもに伝わっていく
- 大人は、子どものためなら変わる
- 退職後の男性には、生きがい・居場所が必要
- 10年先には、団塊の世代が75才以上になる
→認知症の予防必要
- 人々の自発性をどう引出すか
(つながり、やる気、楽しい、充実感、生きがい、居場所)
- 子どもは、遊び・食・睡眠が基本
(食事摂取量>遊び運動、健康増進計画p40)

3

フューチャーセッションの様子

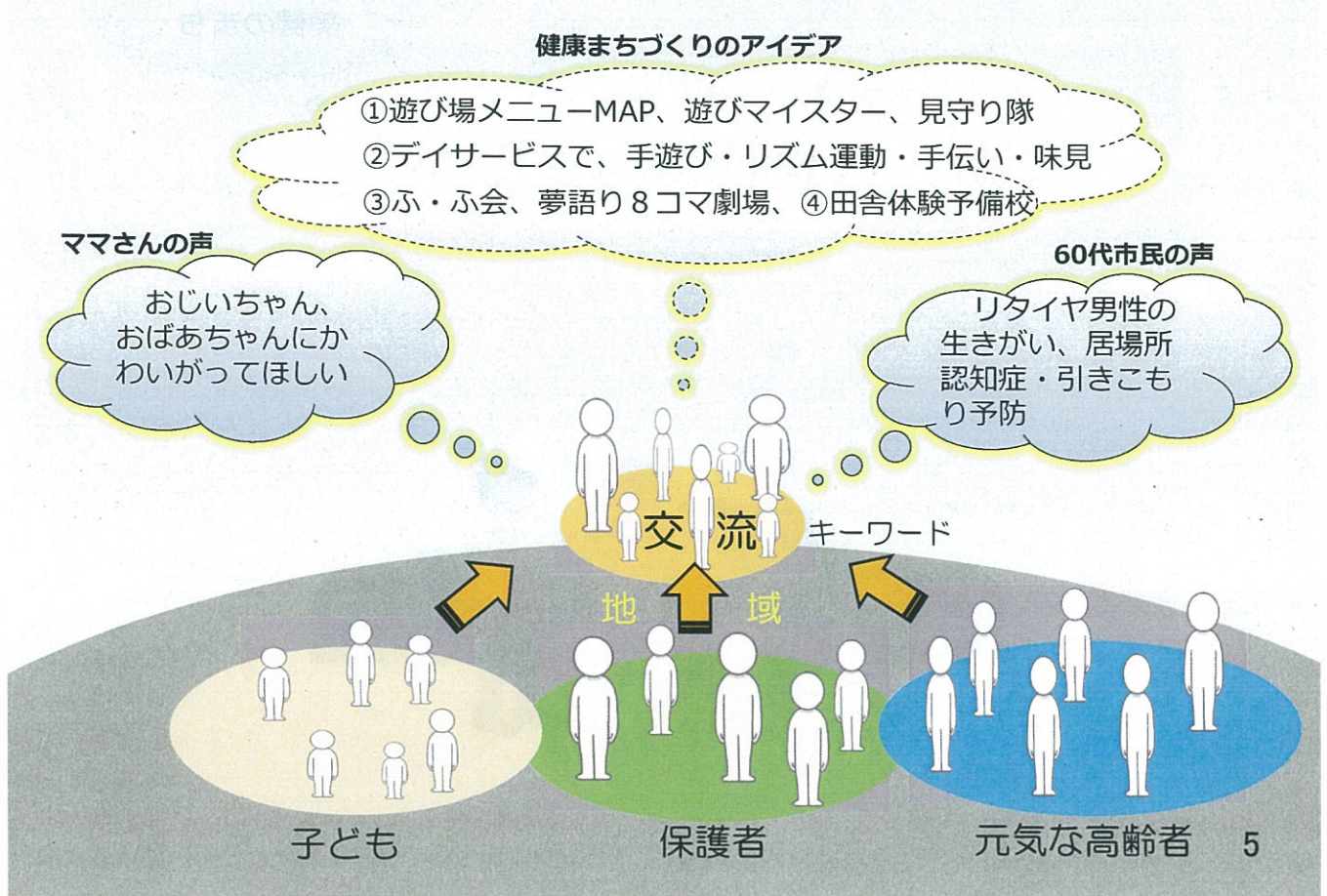


子どもセンター

ふれあいセンター

4

フューチャーセッションの結果



推論

子ども・保護者・元気な高齢者の
交流は、みんなにいい (健康面での相乗効果)

美しい環境のもとで
3世代を育む健康なまちをめざす
のがいいのではないかな？

美しい環境のもとで

(仮称) 3世代育みタウン



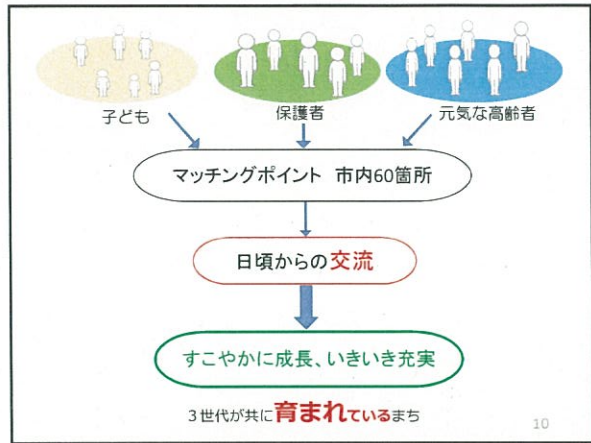
7

(仮称) 3世代育みタウンとは？

子ども・保護者・元気な高齢者のマッチングポイント（注）が多種多様に設けられ、日頃から**交流**を重ねて、子どもや保護者が**すこやかに成長**し高齢者の生活が**いきいきと充実**し、3世代が共に**育まれている**まち

（注）参考イメージを次ページ以降に例示

8



マッチングポイントの参考例

3世代交流の場

- ①遊び場：広場、公園、子どもセンター、保育園、幼稚園
- ②デイサービス
地域リビング、本よみ場、茶のみ場、もやい館、ふれあいセンター
- ③ふ・ふ会（主夫・主夫向け）、夢語り8コマ劇場
- ④田舎体験予備校：
- ⑤各種イベント会場：

水俣にあるもの（計画書等のページ）

- 環境マイスター（環境白書p33）
- 地域リビング（地域福祉計画p93）
- 子どもセンター、子どもサロン（同p94）
（児童館、地域子育て支援拠点事業、子ども・子育て事業計画p27,43,44
地域福祉計画p66-67）
- 子ども関係の事業（子育て支援事業計画p26-27）
- 地域包括支援センター（包括的支援事業：地域福祉計画p58、
地域サポートセンター<新規>p59）